

松江市 こどもまんなか 幼小架け橋プログラムの手引き



令和8年3月

松江市
松江市教育委員会

松江市では、平成25年度に「松江市保幼小接続カリキュラム」を作成し、松江市のこどもに、「かしこい体」「生活する力」「学ぶ力」の3つの育てたい力を示してきました。これに加えて、令和6年に作成された「松江市幼児教育こどもまんなかビジョン」を基盤に、幼児教育施設や小学校が共通の視点でこどもの育ちを確認し、実践を積み重ねてきました。

しかし現在、松江市では小学校1年生での不登校やいじめの増加、集団生活への適応の難しさなどが見られ、保護者からも1年生の時から学校生活への不安を感じる声が多く寄せられています。全国的にも同様の傾向が顕著です。特に1年生で不登校や不安が集中していることは、幼小接続期の教育の充実が急務であることを示しています。幼児教育と学校教育の間の環境の変化が乗り越えられるように、幼児教育施設と小学校の先生たちが同じ認識でこどもに接することが大切です。幼児教育施設と小学校の認識がずれていることにより、不安や戸惑いを抱き、主体的に力を発揮しにくくなっているこどももいます。このような状況が続くと、小学校からの学習がゼロからのスタートとなり、幼児期の学びが十分に活用されず、学ぶ楽しみを失ってしまう恐れもあります。

こうした課題を踏まえ、国は令和4年度より「幼保小の架け橋プログラム」を推進し、島根県も「しまね教育振興ビジョン」に基づき「しまねの架け橋期の教育ガイド」を策定しました。幼児教育の成果を小学校教育へつなぎ、教育内容や方法の違いによる段差をしっかりと認識するための合同研修や相互理解の取組が進められています。「架け橋プログラム」の目指すところは主体的・対話的で深い学びを実現していくことです。幼児教育の質を向上させ、それを小学校の学びの基盤として働くようにします。幼児教育における学びを、学びの芽生えとして捉え、そこで生まれる関心や感覚を、小学校における基盤的な活動へと発展させていきます。また、それらを個々の授業の単元における基礎として位置付けることを目指します。

文部科学省の促進事業でも、先生方の指導方法が変化し、こどもの主体的な姿がより見られるようになる成果が報告されています。

このような国・県の方向性を踏まえ、松江市でも幼小接続を円滑に進め、こどもが安心して力を発揮し、学びや生活を楽しめるようにすることが求められています。本手引きはそのための指針として、幼児教育施設と小学校が共通の理念のもとに連携し、架け橋期の教育を充実させるために作成しました。

先生方には、ぜひ本手引きを教育活動や研修、交流の場で活用していただき、未来へ広がる学びの基盤を共に築いていただきたいと思います。

「松江市こどもまんなか架け橋プログラムの手引き」に関わるSDGsの目標



【目標4番】
「質の高い教育を
みんなに」
ターゲット①②

SDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会を2030年までに実現するための17の国際目標です。

本手引きに基づき、こどもに関わる全ての大人が、架け橋期の教育の充実を目指し、協働して取り組むことにより、国際課題であるSDGs（ゴール4）の達成にも貢献します。

「松江市こどもまんなか幼小架け橋プログラムの手引き」で使用する用語についての補足

○「幼小」	・就学前のこどもが在籍する全ての幼児教育施設と小学校の総称、及び全ての幼児教育施設における保育・教育と小学校教育の総称。 ※「幼小」は幼稚園と小学校を指すのではない。
○「幼児教育施設」	・幼稚園、保育所（園）、認定こども園、特別支援学校幼稚部、認可外保育施設等。
○「認定こども園」	・幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園、保育所型認定こども園、地方裁量型認定こども園。
○「小学校」	・小学校及び義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部。
○「幼児教育」	・幼児教育施設において行われる保育・教育のこと。「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に、保育・教育の3要領・指針（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）にある「幼児教育」とほぼ同義で使用している。
○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」 ※以降は「10の姿」と表記	・幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。「10の姿」ともいう。
○「幼児期」	・幼児教育施設においてこどもが生活する期間の総称。
○「こども」	・0歳から小学校就学以降まで乳児、幼児、児童の総称。
○「小学校接続を見通した5歳児の年間指導計画」	・就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされてつながるように工夫された5歳児の年間指導計画のこと。通称アプローチカリキュラム。
○「環境を通して行う教育」	・幼児が自ら興味をもって主体的に環境に関わり、様々なことを感じたり、気づきや発見を得たりして発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況を作り出すこと。
○「わくわくスイッチ」	・遊びや学びにおいて、「楽しい」「おもしろい」「やってみよう」「がんばるぞ」といったわくわくする気持ちにさせること。

【参考資料、文献 他】

・文部科学省（2018）	『幼稚園教育要領解説』文部科学省
・厚生労働省（2018）	『保育所保育指針解説』厚生労働省
・内閣府、文部科学省、厚生労働省（2018）	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府
・文部科学省（2017）	『小学校学習指導要領解説』文部科学省
・文部科学省（2022）	『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）』文部科学省
・中央教育審議会（2023）	『学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～』文部科学省
・文部科学省（2025）	『「幼児教育推進体制等を活用した幼保小の架け橋プログラム促進事業」に係る』第1回意見交換会』文部科学省
・文部科学省（2024）	『今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会最終報告』文部科学省
・内閣府（2023）	『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）』内閣府
・白梅学園大学 無藤隆（2025）	『幼児教育と小学校教育をつなぐ架け橋プログラムとは』
・文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官（併）教科調査官 平手 咲子（2025）	
・『令和7年度幼児教育の理解・発展推進事業都道府県協議会協議会協議主題について（2025）』	
・京都市教育委員会、京都市子ども若者はぐくむ局、京都市架け橋会議（2024）	『京都市幼保小の架け橋プログラム手引き』
・島根県教育委員会（2025）	『第2期しまねの学力育成推進プラン』
・島根県幼児教育センター（2025）	『しまねの架け橋期の教育ガイド』島根県幼児教育センター
・松江市教育委員会（2013）	『松江市保幼小接続カリキュラム』松江市教育委員会
・松江市幼児教育ビジョン検討委員会（2024）	『松江市幼児教育こどもまんなかビジョン』

1 架け橋プログラムの意義

2 松江市の現状と課題

- (1) こどもを取り巻く環境の現状と課題
- (2) 幼小接続に関する課題

3 松江市の方針

- (1) 架け橋プログラムの実施にあたり大切にしていきたい視点と目指す方向性

- ① 架け橋期の重要性の理解
- ② 実質的な話し合いや実践を重視
- ③ こどもまんなか架け橋期の目指すこどもの姿

- (2) 具体的な取組

- ① 全幼児教育施設、小学校での実施
- ② 地域・保護者の実態や意向を踏まえた取組
- ③ こどもの姿を基にした幼児教育施設と小学校との話し合う関係づくり
- ④ 研修を通じた幼小接続の推進
- ⑤ 主体的・意欲的に学ぶ保育・教育の創造
- ⑥ 幼小がそれぞれのねらいをもち、双方に学びのある交流の工夫

- (3) 架け橋プログラムの進め方（フェーズ）

～カリキュラム作成がゴールではなく、実質的な接続や実践につなぐために～

- ① フェーズ1（幼小接続・架け橋期の重要性への理解）
- ② フェーズ2（話し合いの場の設定）
- ③ フェーズ3（校区で目指すこどもの姿・育みたい資質・能力の決定）
- ④ フェーズ4（日々の保育や授業に生かして実践）
- ⑤ フェーズ5（幼小接続の継続的な実施、保育や授業・接続の取組の振り返り）

4 参考資料

1 架け橋プログラムの意義

架け橋期とは...義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期です。この時期を「架け橋期」と呼びます。

幼保小の架け橋プログラムとは...架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全てのこどもに学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

松江市の
メインテーマ

「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」 抜粋 文科省R4.3月

こどもたちの

連続する育ちを切れ目なく支える。「わくわくスイッチを切らないこと」

こどもが、幼児期で培われたわくわく感・達成感・充実感を、小学校でも継続して保障されなければなりません。目指すところは、「主体的・対話的で深い学び」です。切れ目のない支援は、こどもの主体的な学びを支えます。幼小が相互理解を進めた教育のつながりを意識した活動が、こどもがわくわくするような生き生きとした学びとなって、豊かな体験を生み出し、「個別最適な学び」・「協働的な学び」の実現にもつながっていきます。

こどもの豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。そのために、幼小の教育のつながりを意識した遊びや学習を計画し、保育・授業の改善を目指します。

～架け橋期の目指す保育・教育～

幼児教育施設 保育改善のポイント

- こどもがやりたい意欲をもって取り組める自発的な遊びの重視(計画的な環境づくりなど)
- 仲間と話し合い考えることのできる場の工夫
- 様々な遊びや生活の中での学びの芽生えを見取り、支援する視点
- 小学校との接続を見通した保育の実践
- 小学校教育の資質・能力の育成につながる多様な体験の保障
- 松江市のこどもに育てたい3つの力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)や資質・能力の育ちについての見取り

小学校 授業改善のポイント

- 「環境を通して行う教育」を柱にしながら、こどもそれぞれの興味や関心や一人一人の個に応じた多様な学びを引き出す工夫
- 幼児教育の手法(環境・活動・関わり)をつなぎ、生かす支援
- 幼児期の学びの芽生えをつなぎ、伸ばす視点として幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を踏まえた指導の工夫
- 松江市のこどもに育てたい3つの力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)や資質・能力の育ちについての見取り

松江市では

こどもに関わる全ての大人が、架け橋期の教育の充実を目指し、協働して取り組みます。

2 松江市の現状と課題

★(1) こどもを取り巻く環境の現状と課題★

- 小学校1年生における不登校児童数・いじめの認知件数の顕著な増加
- 職員間の理念・実践の共有不足による活動の停滞
- 幼児教育施設と小学校間のギャップによるこどもの不安や適応困難
- 幼児期の遊びで培った力が小学校の学びにうまくつながらないことによる学習意欲の低下
- コロナ禍を経たことによる交流機会の減少、人と関わる力の育ちの弱さ

★(2) 幼小接続に関する課題 ★

- 幼児期の「遊び」、小学校の「授業」など、お互いの教育の理解が不十分
- 学びの連続性を考慮したカリキュラムの不十分さ
- 幼小接続の必要性・重要性の理解と実行の難しさ
- 小学校に対して複数の園所との連携・対応の難しさ
- 時間・人的制約による、交流や情報交換・共有の難しさ

～幼小連携アンケート結果(R6幼児教育施設・小学校管理職対象)より～

このような現状や課題を受け、松江市のこどもたちのために、学びのつながりを意識し、安心して充実した架け橋期を過ごすために、

松江市では**次章に示す方針**を立てました。

松江市の伴走支援

幼小接続のイメージ

～すべてのこどもに安心感と豊かな学びを～

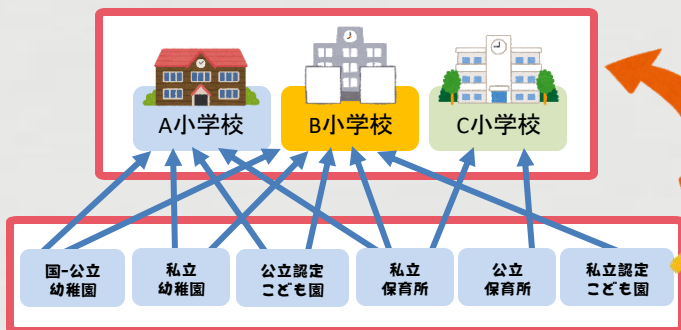
- ・方針の提示
- ・研修の実施
- ・訪問指導の実施
- ・評価、検証 など

・幼児教育と学校教育をつなぐ

・小学校への入学状況が多様であることの考慮

学校教育

幼児教育



・幼児教育施設の横の連携推進
【『松江市こどもまんなかビジョン』参照】

3 松江市の方針

★(1) 架け橋プログラムの実施にあたり大切にしていきたい視点と目指す方向性★

① 架け橋期の重要性の理解

5歳児から小学校1年生の架け橋期の時期は、生涯にわたる学びの基礎を築く大切な時期です。幼児教育におけるこどものわくわく感・達成感・充実感等は、小学校教育においても保障されなければなりません。関係する大人同士が連携・協働し、架け橋期に相応しいこどもの主体的・対話的で深い学びを支えるため、保育と教育の質の向上を目指す必要があります。

② 実質的な話し合いや実践を重視

松江市では、架け橋期のこどものためにじっくりと話し合い、相互の保育・教育の理念を共有することを最優先させたいと考えます。幼児教育施設と小学校が互いに情報交換し、今あるカリキュラムや支援方法を共有することで、幼児期から小学校への学びの連続性を保っていきます。特に入学時は、5歳児と小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、一貫した教育を目指していきます。

③ こどもまんなか架け橋期の目指すこどもの姿

松江市教育大綱(令和4～11年度)は、「～DREAMS from MATSUE～ふるさと松江から夢を実現し未来を切り拓く」という理念のもと、「生きる力をもった子どもたちの育成」を基本方針としています。令和6年3月には「松江市幼児教育こどもまんなかビジョン」を策定し、「健やかな心と体をもち、自分の力を発揮しながら意欲的に生活するこども」を目指すこどもの姿としました。これを受け、0歳から18歳までの学びの連続性と、特に5歳児から小学校1年生の「架け橋期」に着目し、切れ目のない支援を進めていきます。

そこで架け橋期における目指すこどもの姿を、以下のように定めました。

健やかな心と体をもち、自らの力を発揮しながら意欲的に生活し、学びに向かうこども

「自分は大切にされている」自己肯定感・自己有用感を養う。
地域の環境や特色を生かした取組や体験を通して豊かな感性を養う。

人と関わる楽しさや葛藤等様々な感情や気持ちを調整する。
そのこどもらしい見方や感じ方を理解し主体性を育む。
直接体験により意欲や自信を大きくする。

主体的に「遊び」や「生活」を創り出すことを楽しむ。
こどもの意欲や期待に応える保育や授業を進め、「学び」の喜びや楽しさを実感する。

★(2) 具体的な取組★

架け橋プログラムの取組みを次の3つの観点に整理しました。

体制づくりと 情報共有

架け橋プログラム推進に関わる大人が、情報を共有し目指すこどもの姿や資質・能力を話し合い理念を共有します。気軽に話し合え、協働できる体制づくりを第一に考えます。

① 全幼児教育施設、小学校での実施

- 全ての幼児教育施設と小学校での実施。
- 「小学校区」を原則とした連携・接続の範囲。
- 小学校の管理職(校長)主導での推進。

② 地域・保護者の実態や意向を踏まえた取組

- 架け橋プログラムの理解促進のための情報発信(園だより・懇談会・説明会など)。
- 地域や保護者の意向を踏まえた、目指すこどもの姿や具現化に向けた取組内容の話し合い。
- 四者(幼児教育施設・学校・保護者・地域)の協力による、地域ぐるみの教育の推進。

教育観・ 教育方法の 相互理解

保育・授業を見合うことで、互いの教育の違いを理解するとともに学びの連続性を意識し、共有した育みたい資質や能力を基に話し合うことで保育・授業の質の向上を図ります。

③ こどもの姿を基にした 幼児教育施設と小学校との話し合う関係づくり

- こどもをまんなかにおいた、育みたい資質・能力の話し合い。
- 立場を超えた教職員の対話と協働による理念共有。
- 保育・授業を見合うことによる違いの理解と、育みたい資質・能力や「10の姿」を手掛かりとした話し合いによる保育・授業の質的向上。
- 実現しやすい交流や関係づくりからスタート。

④ 研修を通じた幼小接続の推進

- 架け橋期の重要性を共有し、校区ごとに情報交換。
- 目指すこどもの姿(育みたい資質・能力)や架け橋プログラムの進捗を話し合う時間を設定。

⑤ 主体的・意欲的に学ぶ保育・授業の創造

- 幼小の学びのつながりを意識した、保育・教育の相互理解と質の向上。

幼 小学校の授業を、こどもの姿、教材や環境の在り方、先生の言葉がけ、教育のつながりという視点で参観し、5歳児の育ちに合わせて保育へ反映。

小 体験的要素を取り入れ、こどもの「考える力」を伸ばす指導の工夫。

- 幼児教育と小学校教育の学びのつながりを大切にした主体的・対話的で深い学びに向けた保育・授業改善。

幼 主体的な遊びを促す環境構成の工夫。

幼 自分の考えを言語化する機会の保障。

小 遊びの要素を取り入れるなど、幼児期の経験を活用する活動を増やし、学習への興味の喚起。

小 合科的、関連的な指導や弾力的な時間割の充実。

こども同士の 交流の促進

できることからこども同士の交流や関係づくりを進め、安心感や自己有用感の育成を図ります。

⑥ 幼小がそれぞれのねらいをもち、双方に学びのある交流の工夫

- 幼児と児童が主体的・自発的に取り組める交流とその継続をめざし、幼小それぞれの交流のねらいや活動内容の明確化から振り返りまでの事前・事後の話し合いの充実。
- 幼児教育施設同士の交流における、こどもと職員双方への刺激や小学校進学時の安心感を味わえるような交流の工夫。

取組の足跡を残して振り返り、こどもの姿を軸に教職員が話し合い、理念を共有することが次年度への第一歩です。架け橋期のこどもの姿をまんやかに、目指すこどもの姿やそれを実現するための教育活動の在り方などの話し合いを行うことによって、保育・教育の質的向上を図ります。

【参考】松江市の幼児教育・保育との関連

架け橋期における
目指すこどもの姿

健やかな心と
体をもち

自らの力を
発揮しながら
意欲的に生活し

学びに向かう
こども

松江市のこどもに育てたい3つの力

かしこい体

体を支える力
体力
繰り返し挑戦する力

生活する力

生活習慣の自立
ひと・もの・ことと
関わる力
主体性・協調性
・道徳性

学ぶ力

気づき・感じる・発見する
(興味・関心)
聴く・話す・考える
ためす・想像する

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (10の姿)

- ① 健康な心と体
- ② 自立心
- ⑥ 思考力の芽生え

- ① 健康な心と体
- ② 自立心
- ③ 協同性
- ④ 道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤ 社会生活との関わり

- ③ 協同性
- ⑥ 思考力の芽生え
- ⑦ 自然との関わり・生命尊重
- ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの
関心・感覚
- ⑨ 言葉による伝え合い
- ⑩ 豊かな感性と表現

★(3) 架け橋プログラムの進め方（フェーズ）★

～カリキュラム作成がゴールではなく、実質的な接続や実践につなぐために～

松江市では、『架け橋プログラムの進め方（フェーズ）』を、次の3つの観点から整理しました。『体制づくりと情報共有』『教育観・教育方法の相互理解』『こども同士の交流の促進』の観点に基づき、「基盤づくり」から「連携・接続」までの5つのフェーズ（段階・ステップ）で整理しました。

① フェーズ1 （基盤づくり：幼小接続・架け橋期の重要性への理解）

連携・接続する幼児教育施設・学校の決定

- ・連携・接続の範囲は「小学校区」を原則とする。校区に幼児教育施設がない場合は、中学校校区の他の小学校と一緒に中学校校区の幼児教育施設と連携・接続を行う。

幼小接続担当者の決定と、連携・接続の窓口の明確化

1年生の情報共有

- ・入学後、安心して小学校生活を送るために、幼小連絡会、園所訪問、連携シートなどで情報を共有する。

小学校と共有した、5歳児の年間指導計画に基づく保育・教育の実施・実践

- ・安心して遊びこんでいけるような環境構成を工夫する。
- ・地域のひと・もの・こととふれあう体験を進める。
- ・こども理解を進め、個に応じた支援の充実を図る。

幼児教育施設と共有したスタートカリキュラムに基づく教育の実施・実践

- ・安心して自ら学びを広げていけるような学習環境を整える。
- ・生活科を中心に、合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ・児童の発達の特性を踏まえて、時間割や学習活動を工夫する。

今できる交流からスタート

- ・行事予定などの配布物・お便りなどを活用して交流する。
- ・幼児教育施設・小学校での活動を共有し、それぞれの行事への幼児・児童、並びに教職員の参加を促進する。
- ・幼小のこどもの交流活動（学年は不問）を実施する。



まずは教職員同士のつながりを優先したいと考えています。そのため、市主催の管理職研修・担当者研修では、校区ごとに集まって話し合う時間を設け、関係づくりを進めていきます。

② フェーズ2 （検討・開発：話し合いの場の設定）

幼小の職員間の話し合い、職員同士の交流の場の設定

- ・幼小の管理職同士が、持続的に話し合える体制づくりを進める。担当者同士が気軽に話し合える関係づくりを進める。
- ・地域やこどもの実態を把握し、校区内でのこれまでの幼小連携体制や運営状況を確認する。

幼小接続・架け橋期の重要性の理解と参画

- ・所属施設・所属校での研修、小学校区・中学校校区での合同研修、自治体などが開催する研修を推進する。

幼児期の育ちや学びのつながりを意識したスタートカリキュラムの策定・実践

- ・幼児教育施設での生活の流れやその発達を理解し生かすことで、入学後の1年生がより安心して学校生活が送れるようにする。

小学校生活を意識した5歳児の年間指導計画の策定・実践

- ・小学校での生活や授業などを理解し、意識した保育・教育を行うことで、入学後の安心感につなげる。

5歳児と1年生の交流の実施（生活科を中心に秋祭り、1日（半日）入学など）

小学校区の幼児教育施設同士の交流の実施



幼小連絡会や園所訪問、公開保育・授業の場で、幼小接続について話し合う時間を確保しましょう。スタートカリキュラムや5歳児の年間指導計画の共有・打合せができるといいですね。

③ フェーズ3 (連携・接続の実施：校区で目指すこどもの姿・育みたい資質・能力の決定)

- 各校区で話し合い、つながりを意識した架け橋期の「目指すこどもの姿」や「育みたい資質・能力」の設定と共有
- ・幼小の職員で地域やこどもの実態、各幼児教育施設や小学校が大切にしていることを基に、校区の架け橋期のプログラムにおける幼小で「こどもの姿」を語り合い共通の視点を見出す。
- ・「こどもの姿」や松江市のこどもに育てたい3つの力を基に話し合うことで、共通の視点をより具体的に目指すこどもの姿の実現に向けた「育みたい資質・能力」を協議する。
- ・小中一貫教育での学園の「目指すこどもの姿」を参考にして、話し合うことも考えられる。

- 「目指すこどもの姿」、「育みたい資質・能力」を基にした、「幼児教育施設で展開される活動」や「小学校の生活科を中心とした各教科などの単元構成など」といった具体的な取組の協議及び実施
- ・こどもの学びを豊かにする人とのつながりを重視する。
- ・指導上の配慮事項を確認し、つながりが充実するよう環境構成やこどもへの関わり方を工夫する。

実施内容の足跡としての整理

安心して小学校生活を送るための、校区における5歳児の年間指導計画とスタートカリキュラムの協議と公開

幼小におけるそれぞれのねらいを明確にしたお互いに学びのある交流の実施

- ・事前のねらいを確認する打合せと事後の振り返りをする合同協議を実施する。

地域や保護者の意向を踏まえた目指すこどもの姿や具現化に向けた取組内容の話し合いを行う。

④ フェーズ4 (連携・接続の充実：日々の保育や授業に生かして実践)

実施状況の把握と支援

- ・幼小の教職員、保護者、自治体内の関係者などへのアンケート調査やヒアリングを実施する。
- ・「目指すこどもの姿」の具現化への取組の振り返り、成果と課題の把握を行う。

保育・教育内容の理解を深める合同研修会の開催

公開保育・公開授業における事後研修会の充実

- ・保育と授業のつながりをテーマに話し合い、有識者の講演を聞くなど、幼小の職員が互いに意見を交わすことができるような研修を計画・実施する。
- ・小学校との接続を意識した保育実践と幼児期の育ちや学びを意識した授業実践を実施する。

次年度のカリキュラムに生かすための取組の蓄積と検討

こどもの主体性が発揮できる交流に向けての工夫

- ・事前に交流のもち方や互いのねらいを明確にする打合せを実施し、「10の姿」や松江市のこどもに育てたい3つの力を手掛かりにこどもの姿やこども同士の関わりを振り返る合同協議を開催する。

四者(幼児教育施設・学校・保護者・地域)で目指すこどもの姿を共有し、協働して地域ぐるみの教育を推進する。

⑤ フェーズ5 (連携・接続サイクルの定着：幼小接続の継続的な実施、保育や授業・接続の取組の振り返り)

方針の改善・発展と継続

- ・実態に応じた架け橋プログラムの改善・充実のための話し合いを定着・発展させる。
- ・幼小接続が持続的発展的な取組となるための組織体制を構築する。

保育・教育内容の理解を深める合同研修会の定着

公開保育・公開授業における事後研修会の充実

- ・幼児教育と小学校教育の連続性と一貫性を意識した保育・授業を行い、こどもが主体的に学ぶ姿が見られる「主体的・対話的で深い学び」のある保育・授業への改善・実施を推進する。

こどもの自発的な行動が生まれる交流の在り方の工夫(環境づくりなど)

- ・こどもの主体性の発揮を視点に踏まえ、交流内容の振り返りとこどもの自発的な交流が生まれる内容への改善を図る。

架け橋期のカリキュラムの作成と改善(架け橋期のカリキュラムは「取組の足跡」)

- ・松江市では、架け橋期のカリキュラムの作成は任意としています。ただし、取組が進み、実施した足跡を整理し、振り返って保育や授業の改善を語り合うためには、架け橋期のカリキュラムの作成は有効な取組です。幼小接続を持続的に実施するために「松江市こどもまんなか架け橋期カリキュラム例」を参考に作成してみましょう。



架け橋プログラムの推進に関して、様々な相談に応じます。お困りのこと、お悩みのことがあればご相談ください。
松江市教育委員会 学校教育課
55-5341